

平成30年度第1回 横浜美術館指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 平成30年6月15日（金） 15時～ 16時30分
- 2 場 所 横浜美術館 円形フォーラム
- 3 出席者 高橋委員、西田委員、丸山委員、村井委員、吉本委員
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 なし
- 6 議事内容

| | |
|-------|--|
| 議題 | <p>1 委員長の選出</p> <p>2 横浜美術館第2期指定管理事業計画書第Ⅲ期4か年計画について</p> <p>3 横浜美術館大規模改修事業基本計画について（報告）</p> |
| 委員意見等 | <p>1 開会</p> <p>(1) 定足数の確認 委員数5名のうち5名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>(2) 委員会の公開 非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜美術館指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 委員長の選出 委員の互選により、丸山委員を委員長に選任した。</p> <p>(2) 横浜美術館第2期指定管理事業計画書第Ⅲ期4か年計画について 横浜美術館指定管理者から、「横浜美術館第2期指定管理事業計画書第Ⅲ期4か年計画」の案の説明があった。また、委員からヒアリングを行った。</p> <p>〈質疑〉 (委員) 平成33年度、34年年度は、事業方針のみでまとめているが、休館中だからこそ、メリハリをつけ、重点を置く事業の計画が立てられると思う。アウトリーチ、アーカイブの基盤整備、オンライン販売強化等、特に強化して取り組みたいところがあれば、（31・32年度同様）「重点的な取組」を書いてはどうか。</p> <p>(事務局) 補足すると、今回の4年間の事業計画を作るにあたり、平成33・34年度については、大規模改修の具体的な規模がまだ確定しておらず、作品や事務所の移転時期や方法等が明確でない中では、具体的な事業計画を立て難いことから、このような形でまとめてもらった経緯がある。</p> <p>(委員) 改修期間には、事務スペースだけでなく、小さくても展示やワークショップができるスペースを設け、市民に開いている場所があると良い。そうでないと、2年間事務所の中にいるだけになるので、市としても検討してほしい。</p> <p>(事務局) それができれば良いと思うが、大規模改修自体の規模等もこれから検討するところであり、休館</p> |

中にそのようなスペースを設けられるかどうかは、賃料や適切な場所なども考慮し、これから検討することになる。

(委員)

財政が厳しいのは分かるので、借りるのが難しければ、富士ゼロックスのコレクションスペースであるとか、企業のスペースの活用なども含め、2年間開いている場所が全然無いという状況にならないよう、検討してほしい。

(事務局)

今お話しいただいたような点も含め、予算面、スケジュールなど今年度検討させていただきたい。

(委員)

19ページのファンドレイジングについて、市民が横浜美術館や美術界を支えていくという意味で、もうすこし社会に開いた仕組みを考えてほしい。海外事例でもクラウドファンディングなど間口を広げた先に、大規模改修がある。現在もすでにコレクションフレンズなど支援プログラムもあるが、鑑賞者や市民が支える仕組みをさらに拡大する必要がある。最終的に“ミュージアムは市民のもの”というところに帰着するのであり、「改修後に向けたファンドレイズコンテンツ提案」の方向性を示して行ってほしい。

(委員)

一般的に見て横浜美術館は、ハード面や企画内容などインパクトがある美術館と言える。一方で、当初から、展示室が使いづらいただろうとは思っていた。館長に聞きたいが、どういうところを重点的に変えていきたいといったものはあるか。

(指定管理者)

基本的に3点あり、①収蔵庫不足、②バリアフリー、③ギャラリーをもう少し増やしたい、ということ。希望がいろいろあったとしてもどこまでできるかということ进行调整するため、今、市と調整して、美術館で意見をまとめている。最優先する順番を決め、市の予算や実現可能性を調整するのが今年前半の作業になる。やりたいことと言われれば、山のようにある。

市から提示されたポイントは、収蔵庫拡充とバリアフリーが大きなもの。ただ、30年間使ってきて、展示室のあり方、利用者動線、作品動線等、いろいろな課題がある。次の世代も含め、今この美術館をどうしていくかの意見出しをしているところ。それを市に提案して、設計の中でやりとりしながら検討していく、そのとば口に立っている。

(委員)

収蔵庫については、大きなものが全然入らない状況であることは、学芸員からも聞いている。いい方向に持って行ってほしい。

(委員)

2年間ただ閉じているだけだと、客から忘れ去られてしまう。何らかの形で発信をしてほしい。都の現代美術館では、改修工事中に「MOTサテライト」として、地域に出て展示など多彩な事業を行っている。休館しているからなにもやらない、というような事業の組み立て方はしてほしくない。休館中だからこそできるような事業展開を行ってほしいし、その予算を付けてもらいたい。

(委員)

例えば、市民ギャラリーや市民ギャラリーあざみ野など、市の美術系施設はほかにもあるので、そこで一定期間、美術館の事業をやるということも考えられる。

(事務局)

他の類似施設でどのような活動ができるかは検討したい。また、休館中に何もやらないという考えではないので、可能な限り、何らかの形で活動ができる方向で考えたい。

(委員)

改修後のファンドレイズコンテンツということでは、ネーミングライツは考えているか。

(事務局)

ネーミングライツは現時点では検討していない。

(委員)

京都の京セラ美術館のように、問題になったケースもある。美術館全体に名前を付けるとそうなるが、海外ではギャラリーに個人の名称を付け、入口の所に掲示するような洒落たやり方もある。企業だけでなく市民の個人名が付いたようなスペースもある。改修というのは、大きく生まれ変わるタイミングであり、ある種ファンドレイズのチャンスとも言える。これから準備をはじめ、33・34年度はその期間に充てていただきたい。指定管理者だけでなく市も一緒に検討してほしい。

(委員)

ここまで育ったボランティア活動が、2年間の改修期間に何もなくなると、逆戻りしてしまう。様々な機会、研修などでつなげていってほしい。

ボランティアのあり方は、この中に具体的に書かれた部分もあるが、高齢化、国際化、子どもや障害者など、多様な方々に対応できるような活動を市民が取り組めるよう、質を高めていくいい機会にもなると思う。そういう面でも方向性を見出してほしい。

(指定管理者)

我々も、どのような所に移転するかによって、随分違ってくると思っている。事務所だけでなくワークショップ的なことができる活動スペースが確保できれば、途切れずいろいろやれると思う。そういう希望としてはあるが、まだ未知数。美術館内部の活動を継続しつつ、修繕期間（休館）中だからこそできるようなこともある。写真のデジタルアーカイブ化は、通常業務があるとなかなか手を付けられないが、この機会にそういう整理を行うことで、その後の情報発信にも繋がる。市民がリニューアル後の開館に向けつなげていくような活動ができる場所があると良いと思う。ファンドレイジングでここに書いているのは、改修後に向けたもので、指定管理料以外のリソースをいかに獲得するかということ、絵に描いた餅にならないよう、支援とリターンのシステムを考えていきたい。

(委員)

30周年記念事業として、「国際シンポジウム」を重点的な取組に位置付けているが、年1回の実施する具体的なプランはあるか。

(指定管理者)

改修に入るタイミングなので、これからの時代の美術館について話し合える会にしたい。基調講演と分科会等で、今後の事業の参考になるようなキーワードが、出てくるといいな、という方向性までは検討している。

(委員)

「国際」と銘打つからには、館長の人脈などを駆使し、海外からも論客を呼ぶのか。

(指定管理者)

もちろんそれは考えている。ただ、海外事例の紹介だけに終わらないよう、検討を重ねている。来年の前半を目指し、助成金獲得に向けた準備を進めている。

(委員)

大規模改修基本計画の方向性は問わないのか。30周年の国際シンポジウムも大切かもしれないが、これからこの美術館がどう変わっていくのか、ということもシンポジウムのテーマとしては重要。

(委員)

8ページに、平成31年度の「コレクションによる企画展」とあるが、横浜美術館では、既に最近のコレクション展で企画性の高いものが行われているが、またそれとは違うものか。

(指定管理者)

開館30周年ということで、これまで蓄積してきたコレクションの展望、エッセンスを見せるような、通常企画展とコレクション展を分けるところ、全館を使ってコレクションを見せていくものを考えている。どう見せるかはまさに計画中だが、30年の歩みを見せ平成を振り返りつつ、未来を考え、何か問題提起ができるような展覧会にしたい。

(委員)

横浜ゆかりの原三溪、メディア共催のオランジュリー含めた、この年の企画展3本の中で、コレクションによる企画展が30周年の目玉事業ということか。

(指定管理者)

横浜美術館の独自性を一番打ち出せるものと思っている。

(委員)

力の見せ所。いい展覧会を企画してほしい。

(委員)

目玉という割には、目標入場者数はあまり高くない。冒険的なことをやるということか。

(指定管理者)

魅力あるものにはしていきたい。

独自の展覧会となるため、メディア展のような予算規模は無いので、広報力では及ばないが、様々な場面で市民の方にも参加していただき、もう少し大きな入場者数に到達できればと考えている。

(委員)

アウトリーチと関連事業、ここでこれからの支援者を増やせるのではないか。今から取り組んだ方が良い。

(委員)

市民参画でどれだけの人を巻き込めるかが、これから美術館の支援者を増やしていく機会になる。メンバーシップ含め、このころから取り組み始めた方が良い。

(委員)

15、16ページに、アウトリーチと来館者サービスを単体で挙げているが、人々が美術館や芸術文化に関わることをもっと日常的なものにする、という観点で全体をまとめていくと良い。そういう意味で、4か年計画の中で、段階的に指針を立てていくということも必要。

(委員)

開館30年の式典は、あまり行政っぽくない、美術館らしいものを期待する。

(指定管理者)

30年間いろいろな形でいろいろな方に支援をいただいていた。オフィシャルなものとかジュアルなもの、いろいろなものを考えている。

(委員)

ユニークベニューに繋がるような式典、建物の使い方を示すことを期待する。

(3) 横浜美術館大規模改修事業基本計画について（報告）

事務局から、「横浜美術館大規模改修事業基本計画」の報告があった。

〈質疑〉

(委員)

基本計画を策定した体制を教えてください。市が中心に進めたとは思いますが、指定管理者の関わり、委託先を知りたい。

(事務局)

基本的には本市で進めたが、もちろん指定管理者の意見も聞いて進めている。計画自体は日本総合研究所に委託してまとめた。

(委員)

全体の総合プロデュースは誰がしたのか。

(事務局)

市が行っている。

(委員)

何もないところから基本計画や長期計画を策定するときは、通常、委員会を設置して検討するものだが、今回はしないということか。

(事務局)

通常は施設の改修程度の場合、基本計画は策定しないが、美術館は規模が大きいのということもあって、基本計画を策定したものであり、このための委員会は設置していない。

(委員)

これから30年を見据えた姿を示しており、計画としての意味合いは大きい。そう簡単にすすめてよいものか。

(事務局)

基本的には、設置当初からの基本理念を踏まえたうえで、現代にマッチさせたビジョンを示したものであり、方向性を大きく変更するわけではない。

(委員)

内容が悪いとは思わないが、大きなビジョンを描いているものなので、まとめ方と市民への公表のしかたも考えた方がよい。現場との摺合せをどのように行っているのかも気になる。

(事務局)

手続の面では、横浜市会には1年程前から随時情報共有しながら進めている。策定したものについてはWEBサイトに掲載しており、市民の方からは、ご意見も多数いただいている。

(委員)

パブリックコメントをしていないのに、市民から多くの意見をいただいているのは、それだけ注目度が高いということなのではないか。

(委員)

30年経って改修工事を行い次の新しい横浜美術館がスタートする。美術館が新しく生まれ変わるということ、改修工事と一緒にアピールできるとよい。

(事務局)

現段階では改修計画のビジョンでだけで、どう変わるかはまだ見えない状況のため、具体的な改修内容が明確になった段階で、市民にはアピールしていきたい。

(委員)

基本設計の中では、美術館の指定管理者と設計者とは頻繁にミーティングをしているのか。

(事務局)

まだ設計が始まったところだが、これから頻繁にやっていくことになる。

(委員)

いろいろな制約はあるが、30年に1回のチャンスであり、できるだけ高みを目指して、いい美術館にリニューアルしてほしい。

(委員)

基本計画にいいことは書いてあると思う。これに対し、美術館の現場で意見があるのであれば、今言わないと間に合わなくなるので、30年後の姿についても意見を言って、文言含めて調整してください。

(指定管理者)

大規模改修というのは、ハードだけではなくソフト面の課題も考える必要がある。将来の美術館像についての希望はあるが、どこの部分を実現できるかの調整が一番難しい。思い切った改修で美術館の可能性が開かれていくことはあるかもしれないが、夢と現実をどう摺り合わせていくかが大切。計画を最終的にどういう形に還元していくかについては、相当緻密な調整が必要で、今それが始まったところだ。

(委員)

改修工事が終わる平成35年度は、3期指定管理の時期になり、改修の期間は3期の事業計画を作る作業も出てくる。休館中の時間でしっかり練り上げてほしい。

(委員)

市民に向けた情報発信として、大規模改修で段階的に施設が良くなっていくということを、こまめに発信するなど、一般の方の期待感を高めるような発信ができれば、リニューアル後にぜひ行きたくなると思う。

(事務局)

他都市でも、改修中の状況をお知らせした事例があるので、参考に検討したい。

(委員)

自分が美術館の改修に関わった際には、設計事務所と行政主導で進んでしまい、学芸部門の話は後回しになった経験もあるので、気をつけて進めてほしい。

(事務局)

我々にはお金の権限が無いので、財政部門を説得できる資料を持って挑む必要がある。その意味でも、専門家である美術館のみなさんと連携しながら進めていく必要があると考えている。

(委員)

改修の工事費はまだ議会を通っていないのか。

(事務局)

予算化されたものは、今年度の基本設計費のみであり、実施設計費、工事費はまだ確約されていない。休館中の対応も、中身の濃いものを施設の方で検討してもらい、財政部門に対してはこちらでしっかり対応していきたい。

(委員)

引越しは、事務所だけでなくコレクションや蔵書もあり、相当大変だと思うがしっかりやっていただきたい。

(指定管理者)

他都市美術館からは、改修は予想以上に大変と聞いている。早めに進めなければならないこともあるのだが、日常業務とどう並行させるかの調整が難しい。

(委員)

工事期間中、コレクションを移動、保管するのは指定管理者の業務になるのか。

(事務局)

予算面も含め、今後検討する。

議事は以上